

はしもと

〈病院理念〉

地域に根づいた患者様に信頼される病院づくり

〈基本方針〉

～心のかよう病院を目指して～
まごころの医療を目指します
常に良質な医療の提供を心がけます
健康増進、疾病予防の推進に取り組みます

〈病院運営のコンセプト〉

1. 気づきの医療
2. わかりやすさ



新年挨拶（理事長）

皆様、明けましておめでとうございます。

当院は回復期リハビリテーション病棟が89床、認知症病棟が67床となっており、患者様のケアとリハビリテーションに力を注いでおります。リハビリテーションにおいては様々な取り組みを行っており、回復期リハビリテーション病棟だけでなく、リハ外来、訪問リハビリ、通所リハビリなども積極的に展開しており、地域社会との連携を大切にし、患者様一人ひとりに合わせたきめ細やかな医療を提供しております。

2023年度には6度目の病院機能評価を受け、その結果を受けてさらなる改善と発展を進めております。

また、2024年は診療報酬、介護報酬、障害福祉サービス等の報酬がトリプル改定される年となります。私たち医療・介護従事者は、報酬のアップを願うだけでなく、努力も必要です。単に加算を得るだけでなく、経営戦略を病院・施設経営・運営に取り込む感覚が求められています。患者様にとって便利で、質の高い医療・看護・ケアを提供するためには、次のステップを踏む必要があります。まず、改定によって新たに導入された要件や基準に対応し、着実に加算を得ることで、経済的な安定を確保し、医療・介護の品質向上に繋げてまいります。

次に、患者様にとって便利で分かりやすいシステムを整備することが不可欠です。予約システムやオンライン診療など、先進的な取り組みを積極的に導入し、サービスの利便性向上を目指します。そして、アウトカム（治療結果）に重点を置いた医療提供が求められます。特に、リハビリテーションと認知症ケアにおいては、患者様が最大限の機能を回復し、安心して暮らせるよう、継続的かつ個別化された支援を提供してまいります。

これらの方針をもとに、橋本病院は2024年も地域社会に貢献し、患者様とともに歩むパートナーであり続けます。

皆様にとって希望に満ち、充実した一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

どうぞよろしくお願いいたします。



医療法人社団和風会 橋本病院

理事長 橋本 康子

新年挨拶（院長）

新年明けましておめでとうございます。

当院は、平成元年（1989年）2月、山本町にて診療を開始して以来、地域住民の皆様を支えられ、また、職員が病院理念「地域に根づいた患者様に信頼される病院づくり」に向けて弛まぬ努力を積み重ねながら、実に35回目の新春を迎えることができました。

さて、孔子の始めた儒教の経典である論語では、思いやりについての問答が記されています。子貢という弟子が孔子に「一言にして以て身を終うるまで之を行うべき者有りや。（人として一生涯貫き通すべき一語があれば教えて下さい。）」と聞いたところ、孔子は、「其れ恕か。己の欲せざる所、人に施すこと勿れ。（それは恕。つまり相手の身になって思い、語り、行動することだ。自分が嫌なことは人にするな。）」と答えたといひます。

「恕」は、本来「じょ」と読みますが、私はあえて「思いやり」と読んでいます。良質な医療を提供するためには、患者さんご家族に対する思いやりは医療のプロとして当然のことです。それに加えて、同僚に対する思いやり、周囲に対する思いやり、地域社会に対する思いやり、橋本病院に対する思いやりも、忘れてはなりません。

今年は、「恕」（思いやり）を病院職員全員の共通言語とし、ファインチームワークを働かせながら、患者さんご家族を支えていきたいと思ひます。「ファインチームワークで支える恕（思いやり）の心」です。

どうか、皆様には、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、院長としての新年のご挨拶とさせていただきます。



医療法人社団和風会 橋本病院

病院長 塩谷 泰一

回復期リハビリテーション病棟

■回復期リハビリテーションとは？

回復期リハビリテーションでは身体機能の回復と同時に、日常生活動作や趣味活動の再獲得など、退院後のその人らしい生活を見据えてリハビリに取り組みます。



■橋本病院リハビリテーションの特徴は？

橋本病院では1日最大3時間のリハビリに加え、起床と就寝時の更衣や整容、食事に排泄、入浴といった日常生活動作（ADL）のすべてをリハビリと捉えています。各病棟にリハビリスタッフを配属し、朝夕での更衣や毎食後の整容動作といった実際の時間・場所で動作を行うことで、日常生活への汎化を行うようにしています。

また、必要に応じて、洗濯などのより複雑な身の回り動作（IADL）の練習を行い、自宅生活に近い環境でリハビリを提供していきます。

ADL動作



<朝夕の更衣>



<毎食後の整容>



IADL動作



<洗濯場面>



一人ひとりの病気やケガといった身体状況と慣れ親しんだ行動や習慣を加味しつつ、ご自身でできることを増やし、自宅退院を目指したリハビリを心がけて支援しています。それだけでなく、退院後に自宅での生活を長く行えるように動作練習や環境設定などを検討しながらリハビリを行っています。



新入職員のご紹介 (2023年9～11月入職者)



大西 美優

ONISHI MIYU

職種 看護師
配属先 1病棟



元木 葉留香

MOTOKI HARUKA

職種 看護師
配属先 2病棟A

明けましておめでとうございます。本年も、職員一同「心のかよう病院」を目指し日々精進して参ります。よろしくお願いいたします。

回復期リハビリテーション病棟で勤務しております。患者様とご家族様の気持ちに寄り添った看護が行えるよう日々、努力していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



他職種と連携し、患者様・ご家族様に寄り添いながら社会復帰・在宅復帰に向けた看護が行えるよう努力していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



認知症治療病棟

認知症サポーター養成講座

三豊市役所職員の方を対象とした認知症サポーター養成講座にキャラバンメイトとして参加しました。

認知症サポーターとは… 

認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族に対して温かい目で見守ることがスタートです。

認知症サポーターは「なにか」特別なことをする人ではありません。認知症の人やその家族の「応援者」です。

認知症の人が生活するうえでの障害は、本人ではなく周囲の人の認知症に対する偏見と理解不足から生じることがあります。認知症はだれでもなる可能性のある病気です。いつ自分や家族、あるいは友人や知り合いが認知症になるかわかりません。他人事として無関心でいるのではなく「自分の問題である」という認識を持つことが大切です。

キャラバンメイトは、「認知症になっても安心して暮らせる町づくり」に向けて、自治体と協働して地域や職域、学校などで認知症サポーターの育成を行っています。

認知症サポーター養成講座は、どなたでも受講できます。

お住まいの地域や学校、お勤めの会社などで開催していますので、興味のある方はお住まいの自治体や地域包括支援センター等にお問い合わせください。



認知症サポーターキャラバン

訪問リハビリテーションセンターはしもと

訪問リハビリの役割



当センターでは、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士がそれぞれの専門性を活かし、日常生活の自立や趣味の再獲得、利用者様のライフスタイルに合った生活目標を立ててリハビリを提供しています。

生活目標を立てるうえで大切にしていることは、利用者様の「したいこと」に寄り添うことです。

実際に自宅で生活してみると、入院中には気づかなかった問題点や悩みが出てくる場合があります。利用者様とご家族様が安心して暮らせるように、健康状態や運動能力、環境なども含めて具体的な目標を一緒に検討していきます。また利用者様の生きがいや役割となる活動とともに考え、ご本人様が主体的に選択し生活できるようにサポートしていきます。

① 自主トレーニングの提供



② 動作訓練

実際の環境・道具を活かした練習



③ 環境調整

(道具を使う、やり方を変える)

道具や環境面での工夫



栄養部

脳きり教室に行ってきました！！

三豊市の一般介護予防事業の一環として開催されている「脳きり教室」の講師として参加させていただきました。

毎月バラエティーに富んだ内容で開催されており、11月は「認知症と食生活の関係」ということで、山本町、財田町、豊中町、高瀬町、仁尾町、詫間町、三野町の7町で開催されました。

手ばかり法の話（食事の量）やバランスよく食べるための合言葉など、興味を持っていただけるように、食に関するクイズや脳を活性化させるクイズを取り入れました。

ご興味のある方は、管理栄養士までお気軽にご連絡ください。



行事食

毎月季節に合わせて行事食を提供しています。

硬い物が食べ難い方、飲み込む時にムセがある方など、様々な方がいらっしゃいます。

皆様に楽しんでいただけるように食事も工夫して提供しています。



栄養管理委員会

高齢者の方特有の皮膚トラブル ～ドライスキン～

今年も寒さが一層増しております。

空気が乾燥している時期ですが、皆様 スキン（肌）ケアはされておりますでしょうか。

高齢の方の皮膚の特徴として、皮膚の菲薄化・扁平化に伴い、潤いや弾力の低下が生じ、

「ドライスキン」となることが多いようです。低栄養の方は「ドライスキン」により皮膚が脆弱になっていることが多く、褥瘡（床ずれ）発生の危険性も高くなります。

脆弱な皮膚を回復させる方法として「栄養の管理」が大事であるとされております。

ご家庭での対策として

「ドライスキン」に対して、保湿剤の使用、入浴時に皮膚をゴシゴシと洗うことを避けるなどが勧められております。また、「栄養の管理」においては、水分補給・バランスの取れた食事とともに、積極的に蛋白質、ビタミンC・Eなどを摂取されることが望ましいとされております。不足の栄養素はサプリメントなどで効率的に摂ることができます。



皮膚状態の改善が図れると、社交性・活動性が高まり生活の質

(QOL=Quality Of Life) が向上いたします。

これからの「人生100年時代」を楽しく送りましょう。



ビタミンEは強い抗酸化作用を有しており、皮膚バリア機能の安定を助けます。

ビタミンEを多く含む食品として、

- ・たまご
- ・アーモンド
- ・かぼちゃ
- ・オリーブオイル
- ・大豆

などがあります。



医療安全管理体制委員会

院内緊急時対応シミュレーションを実施しました！！

- 目的**
- ① 危機管理に対する職員の意識を高める。
 - ② 緊急時対応の訓練により、各自の役割や分担を確認するとともに落ち着いた対応ができるようにする。
 - ③ 心肺蘇生法を実施し、その手技を確認する。



今回は、リハビリ室にて入院患者様が急変（心肺停止）した状態を想定し訓練を実施しました。医師や看護師・リハビリスタッフ等、各職種が参加し、緊急時の対応方法についてそれぞれの役割を確認しました。

病院のみならず、疾病や事故等で緊急な対応が必要な場面に遭遇することもあるかもしれません。訓練をしておくことで迅速な対応が適切にできると考えます。今後も継続して緊急時対応シミュレーションを実施し、急変時対応の知識・技術を向上できるようにしたいと思います。



患者サービス委員会

外来待ち時間調査

患者サービス委員会では定期的に「外来待ち時間調査」を実施しています。病院に行くと待ち時間が長くて疲れたり次の予定があったりと、大変な経験をした方も多くいるのではないのでしょうか。

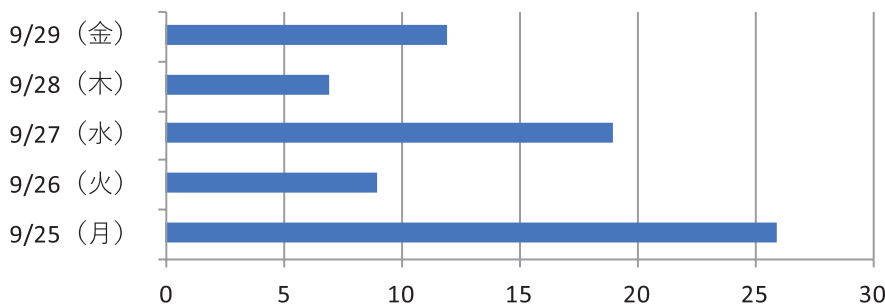
当院では少しでも待ち時間の短縮に繋がるよう、待ち時間調査を実施しています。

9月に実施した「外来待ち時間調査」の結果の一部をご紹介します。



受付時間から診察開始までの平均待ち時間

(分)



	9月25日	9月26日	9月27日	9月28日	9月29日
平均 (分)	26	9	19	7	12

今回の平均待ち時間は、月曜日の26分が最長でした。

前回評価時より平均待ち時間は短縮しましたが、やはり月曜日は施設の定期受診もあるため混雑しやすい状況になっていると思われます。

今後の対策として、施設の定期受診の曜日変更の検討や特定検診の案内を比較的外来患者様の少ない時間帯に行うなど待ち時間の短縮に努めたいと思います。

第31回 日本慢性期医療学会

開催日：2023年10月19日（木）～20日（金）

開催場所：大阪国際会議場（大阪）

参加者：13名（うち発表者8名）



本学会のテーマは、『超少子高齢化時代と慢性期医療～Well Beingを目指した予防という役割～』ということで予防に対する慢性期医療・リハビリテーションの向き合い方についてのプログラムが多く企画されていました。

「Well Being」とは、心身だけでなく社会的な意味でも健康であることを意味し、持続的に満足した生活を送ることができている状態をいいます。治療だけでなく、その後の人生を幸せに送るにはどうしたらよいかを常に考え、患者様一人ひとりと向き合っていくことが重要であるということを変更して考える機会となりました。

また会場内には、企業展示コーナーもあり、医療機器や看護支援機器、摂食嚥下障害関連商品、感染対策製品など様々な物を試したり、体験ができるようになっていました。

今回の学会では、医師、看護師、歯科衛生士、リハビリ職、介護職などの多職種参加があり、それぞれの立場を理解し多職種で連携してWell Beingを目指していく必要があると思いました。



三豊中学校 職場体験学習

三豊中学校2年生の4名が職場体験学習に来られました。

日時：2023年11月15日（水）～11月17日（金）

4名の学生さんの希望に沿い、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、看護師、介護士の仕事を体験していただきました。それぞれの医療職の専門的な仕事を見学したり、医療機器の体験など、患者様と一緒にいけることも実施しました。

初日は緊張した面持ちでしたが、3日間の体験やふれあいなどを通し、次第に打ち解け、患者様とも明るくお話しができて楽しみながら体験をすることができました。

この体験を今後の進路に役立てていただければ幸いです。

後日、お礼状が届きましたので、一部抜粋してご紹介いたします。

☆ 医療現場では、たくさんの職種の人たちが互いに協力しあい情報交換をしながら、患者さんが良くなるように一生懸命向き合う姿がとてまかついいなと思いました。私も将来、人のために働ける看護師や、療法士、医師などの医療関係の仕事に就きたいと思います。



☆ 薬局では、薬を1回分ずつ分包し、見てすぐに分かるようにマーカーを引いたり工夫が大切なのだと分かりました。患者さんと話す時は大きな声でゆっくりお話しする事が大切だと気づきました。



学生さんからのお礼状を読ませていただき、夢に向かって頑張っている学生さんの想いに今後も医療職として働く励みとなりました。

病院実績

回復期リハビリテーション病棟 合計89床（1病棟29床、2病棟60床） 2023年度 前期 実績

年月	平均在院日数 (日)		発症から入院までの平均日数 (日)					退院患者数及び退院先 (日)				
	1病棟 (29床)	2病棟 (60床)	脳血管		運動器		廃用症候群	自宅	施設	病院	その他	(合計)
			180日	150日	90日	60日	90日					
4月	68	75	30.3	34.0	21.0	23.0	60.0	25	5	7	0	37
5月	67	86	25.0	31.2	34.8	86.0	35.0	13	5	5	0	23
6月	87	84	53.0	29.3	30.2	25.0	30.0	22	4	7	1	34
7月	90	87	37.3	26.6	21.7	32.0	42.0	21	7	6	0	34
8月	100	72	28.8	25.2	19.7	-	23.5	23	5	6	1	35
9月	86	78	35.4	28.7	19.4	-	16.0	15	7	5	0	27

平均在院日数

病院の入院治療機能の指標の一つで、入院してから退院するまでの期間が平均して何日かを表しています。
【計算式】 在院患者延日数 ÷ (新入院患者数 + 新退院患者数) ÷ 2 * 直近3ヶ月

発症から入院までの平均日数

病気の発症日や受傷日もしくは手術日を1日目として、平均して何日で当院に入院されたかを表しています。

退院患者数及び退院先

退院された患者様の退院先を「自宅」「施設」「病院」「その他」に分けて集計しています。



地域連携部

～ 事前面談について ～

安心してご入院いただくため、紹介元医療機関のご協力のもと、事前面談を実施しています。
面談は、当院についてのご説明と患者様の状態確認を1時間程度でさせていただきます。

【お伺いする内容】	入院前の生活状況	既往歴	リハビリ目標
【お伝えする内容】	入院生活について	入院の準備物	CSセットについて
	入院手続きについて	感染症対策	予約制面会について

入院相談は、
お気軽にご連絡
ください！
地域連携部
窓口：大西 宏美
0875-63-3552
(直通)



職員募集のお知らせ

募集

看護師・准看護師
介護福祉士・介護職

☆入職支度金制度あり



まずは、病院見学にお越し下さい！
給与等詳細は、当院ホームページでも閲覧できます。

<http://www.wafukai-hashimoto.jp>

TEL 0875-63-3311 (人事担当：家野)

医療法人社団和風会 橋本病院
〒768-0103
香川県三豊市山本町財田西902番地1
TEL：0875-63-3311
FAX：0875-63-2651
入院相談直通電話：0875-63-3552
E-mail：hashimoto-hp@wafukai-hashimoto.jp
HP：http://www.wafukai-hashimoto.jp
発行元：橋本病院 広報委員会

医療 回復期リハビリテーション病棟 89床
認知症治療病棟 67床

介護 橋本病院指定居宅介護支援事業所
通所リハビリテーションセンターはしもと
訪問リハビリテーションセンターはしもと

